



## ● 開学 25 周年にあたり

「筑波技術大学」が開学 25 周年を迎えることができました。この間、本学に対し、ご支援、ご協力頂いた関係団体、関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



学長 村上 芳則

振り返りますと、「目や耳からの情報の取得に制限のある学生が、バリアのない教育環境で思う存分勉強し、持っている能力を開花させ、より良い社会自立をしてほしい」という、多くの人々の願いの中で、10 年以上にわたる関係団体、関係者の皆様の要望が実り、昭和 62 年（1987 年）10 月に我が国で初めての聴覚障害者及び視覚障害者のための高等教育機関、3 年制「筑波技術短期大学」がスタートしました。

以来、障害補償システム、教育方法や教材の開発・研究、そして教職員の資質の向上などにより、聴覚、視覚障害者が高等教育の内容を確実に履修できる環境、豊かな学生生活を送ることができる環境の整備に努め、教育と研究の実績を積み重ねることにより、開学 18 年目の平成 17 年（2005 年）には 4 年制「筑波技術大学」として再出発することができました。今春までに短期大学時代と合わせて、1503 名

の卒業生を社会に送り出すなど、社会参画・貢献できる人材育成、障害者のより良い社会自立に多くの成果を上げています。

最近では、一昨年（平成 22 年）4 月に「より高度な勉強や研究をしたい」という願いを叶えるために、聴覚又は視覚に障害のある学生のみを受け入れる、世界で初めての大学院「技術科学研究科」を、昨年 4 月には「教職課程」及び附属東西医学統合医療センターに「リハビリテーション科」を開設でき、25 周年を前に他大学並みに充実をはたすことができました。ここまでに至ることができたのは、文部科学省を始め、多くの人々の長年にわたるご支援とご尽力の賜であり、重ねて感謝申し上げます。

近年、聴覚、視覚障害学生の大学進学が増加する状況の中で、本学の機能の一つである「他大学支援」がますます重要となっています。教育関係共同利用拠点として、障害者高等教育研究支援センターが中心となり、開学以来の本学の教育・研究活動の経験及び成果を広く提供することなどにより、他大学等における障害者の高等教育の環境改善、教育へのイコールアクセス環境の整備に関しての支援を充実、強化しています。

今後も、この 25 年間の経験と実績を基にして、大学院の拡充や理療科教員養成課程の整備など、さらなる教育・研究環境の整備・充実、卒業生や社会人の「学び直し」の受入れ拡大、「留学生センター」の整備による留学生受入れの円滑化などにより、ますます多様化する学びの需要に対応できる大学、国内のみならず、世界の障害者教育の先導的かつ中核的役割を担う大学として、次の 50 周年に向けて着実な計画の推進により改革・改善、機能強化を進め、更なる実績を積み重ねていく所存です。

これまでと変わらぬ、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

国立大学法人筑波技術大学長 村上 芳則



校舎建設の様子



第 1 回筑波技術短期大学入学式の様子

## ● 天久保地区オープンキャンパスを開催

7月28日 土曜日、天久保キャンパスにおいて産業技術学部オープンキャンパスを開催し、219名が参加しました。午前中には、学部・学科についての全体説明、各学科（産業情報学科、総合デザイン学科）の入試解説、体験授業、個別相談、教育・研究施設や学生作品展示の見学を行いました。午後からは、午前と同様の説明・見学プログラムに加えて、学生寄宿舍見学、障害者高等教育研究支援センターによる教職課程の相談及び数学学習相談などを行いました。また、引率の教職員向けに「進路指導教員情報交換会」も開催しました。



受付の様子



体験授業の様子

体験授業では、実際に産業技術学部の授業を体験し、大学で学ぶ専門技術の一端や聴覚障害者に対する直接的な教育方法について体感してもらうことができました。また、施設見学の際には、卒業研究の内容を説明する本学の学生に対して熱心に質問する参加者の姿が多数見受けられました。

今後は、各聾学校等に赴いての産業技術学部のミニ説明会、体験授業を行うとともに、11月9日 金曜日には天久保キャンパスにおいて授業見学会を開催する予定です。

(産業技術学部 谷 貴幸)

## ● 春日地区オープンキャンパスを開催

7月28日 土曜日及び8月19日 日曜日に春日キャンパスにおいて、「夏のオープンキャンパス」を開催しました。参加者は、7月28日が21組、8月19日が31組でした。両日ともに、午前中は希望者を対象とした施設見学、午後は講堂での説明会と各学科・専攻に分かれての体験授業を行いました。

午前中の施設見学では、支援機器室・点字印刷室・附属図書館・体育館・プール及び学生寄宿舍等の見学を行いました。午後の説明会では、学部長や各学科・専攻長の紹介と、副学長及び学部長、学部長補佐の挨拶を行いました。大越副学長の挨拶では、参加者の緊張が和らぐように鍼灸学で知られる“疲れに効くツボ”の話があり、会場の全員が教わったツボをほぐす場面もありました。隈保健科学部長の挨拶では、本学部の構成や教育等に関する概要説明がありました。



保健学科での体験授業の様子



情報システム学科での体験授業の様子

説明会の後、参加者が希望する各学科・専攻に分かれて、詳細な教育内容の説明と体験授業を行いました。本年度の体験授業テーマは、鍼灸学専攻では“はり・きゅう・手技の実際”、理学療法学専攻では“運動療法基礎実習”、情報システム学科では“エクセルを使った音の解析”でした。また、体験授業終了後に、希望者に対する個別教育相談、教室等の自由見学のほか、在学生による学生生活や寄宿舍等の質疑応答コーナーも設けました。

このオープンキャンパスを通して、本学が誇る少人数教育と障害に配慮した最新の教育設備について体感してもらうことができました。

(保健科学部 巽 久行)



## ● 第60回全国ろうあ者大会への出展

6月6日 水曜日から10日 日曜日まで京都市で開催された第60回全国ろうあ者大会（主催：財団法人全日本ろうあ連盟、主管：社団法人京都府聴覚障害者協会）の、「聴覚障害者の生活に関するバリアフリー展」に出展しました。全国ろうあ者大会とは、毎年各県持ち回りで6月に開催され、全国各地から約2,000～3,000名のろう者・その関係者が集まって情報交換・交流するとともに、ろう者の社会的自立・地位の向上及び社会福祉の啓発に努め、大きな成果を上げている盛大な行事です。今年は第60回目という節目の年、そしてろう教育始まりの地とされる京都での開催ということもあり、大会史上最高の5,197名が参加しました。（参考：全日本ろうあ連盟ホームページ）

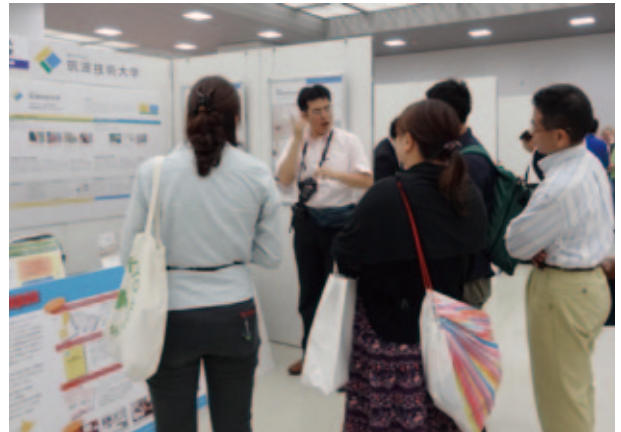
本学が出展するのは4回目になりますが、今回は、文部科学省認定教育関係共同利用拠点「障害者高等教育拠点」として障害者高等教育研究支援センターが実施している各事業の取組（「聴覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築」事業及び「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）」事業）、そして産業技術学部の教育活動を紹介し、「大学概要」や「学部案内」等を配布しました。

2日間で約250名のご来場を頂き、全国各地のろう者を始め、ろう学校関係者、手話サークルやろう協会の関係者、そして手話を学ぶ方々等、幅広い方々から本学の研究活動や教育活動に関心を持って頂きました。また、本学の前身

である筑波技術短期大学の卒業生もブースに寄って頂き、同窓会のように賑わうひと時もありました。卒業生には地域のろう協会や各方面で活躍されている方も多く、近況報告も含めて貴重な情報交換の場になりました。

今回の出展を通して、多くの方々から本学の研究活動や教育活動の内容に関心を持って頂けたと思います。また、参加者の方々からは本学の取組に期待する声も多く頂き、大変有意義な2日間でした。

（障害者高等教育研究支援センター 菅野 奈津美）



参加者に説明をする田中晃講師

## ● 就職ガイダンスを開催

### ● 就職活動における身だしなみと着こなし講座

6月6日 水曜日に、天久保キャンパス講堂にて、洋服の青山つくば店店長 佐藤氏を招き、「就職活動における身だしなみと着こなし」の就職ガイダンスを実施しました。この講座には、両キャンパスから55名の学生が参加しました。

第一印象を左右する身だしなみやスーツの着こなし、小物の選び方をはじめ、立ち姿勢やお辞儀といった就活マナーについて、丁寧な説明がありました。最後には学生からクールビズや小物について多数の質問があり、ガイダンス終了後にも、自らが身につけている小物が就活に適しているか判断を仰ぐ姿が見られました。日頃抱えていた疑問が解消され、学生にとって大変有意義なガイダンスとなりました。

### ● ハローワークの利用方法等に関するガイダンス

7月4日 木曜日には、同じく天久保キャンパス講堂において、ハローワーク土浦の職員の方を招き、ハローワークの利用方法等に関する就職ガイダンスを実施しました。このガイダンスには、両キャンパスから64名の学生が参加しました。

履歴書の書き方や「語先後礼（ごせんごれい）＝話しながら礼をするのではなく、言葉を言い終わってから礼をすること」のような面接マナーをはじめ、求職登録の仕方や

ハローワークの利用方法について等、担当職員ならではのお話がありました。

参加した学生のほとんどが今年度求職登録をする学年であったため、ガイダンス終了後には、登録方法に関して質問をしている学生が多数見受けられました。これから就職活動を始める学生にとって、大きな意味のあるガイダンスとなりました。

（聴覚障害系支援課 学生係）



ガイダンスの様子

## ● 学生が日本東洋医学会学術総会で受賞

7月1日 日曜日、保健学科鍼灸学専攻4年の南條啓孝さん、坂野裕さんが、第63回日本東洋医学会学術総会において、会頭賞（学生発表部門）を受賞しました。発表演題は「鍼への細菌の付着に関する研究」（研究指導：一幡良利教授）です。日本東洋医学会は漢方、鍼灸及びそれと関連する医学・薬学領域が研究分野です。今回初めて学生発表が企画され、学生発表20演題（医学科学生14題、鍼灸学科学生5題、薬学科学生1題）の中から2名の演題が選ばれました。実験研究による報告は本演題のみで、鍼への細菌付着に疎水性の関与があり、感染予防対策には施術時の徹底した消毒が必要であることを述べたものです。二人の更なる活躍が期待されます。

（保健科学部 大沢 秀雄）



受賞した南條さん(手前左)、坂野さん(手前右)と一幡教授(奥)

## ● 卒業生の半谷静香さんがロンドンパラリンピックに出場

本学卒業生の半谷静香さん（小川道場所属・平成22年度保健科学部保健学科理学療法学専攻卒業）が、8月29日水曜日に開幕したロンドンパラリンピックの視覚障害者柔道・女子52kg級に出場しました。結果は残念ながら初戦敗退でしたが、初のパラリンピックを楽しんだようです。

半谷さんは中学生の時に柔道を始め、本学在学中も柔道部で活動し、全日本視覚障害者柔道大会や全日本視覚障害学生柔道大会で優勝し、さらに日本代表として世界選手権やアジアパラ競技大会にも出場していました。国内では敵なしという状況です。しかし世界には強豪がそろっており、世界一を目指して今後ますますの精進と活躍が期待されます。

（障害者高等教育研究支援センター 香田 泰子）



壮行会での半谷さん

## ● 本学教員が全日本鍼灸学会で受賞

6月10日 日曜日、保健学科鍼灸学専攻の池宗佐知子特任助教が、第61回全日本鍼灸学会学術大会において高木賞を受賞しました。論文タイトルは「後肢懸垂により引き起こされる筋委縮の回復過程における鍼通電刺激の効果」です。また、同学会において、鍼灸学専攻の藤井亮輔准教授が高木賞奨励賞を受賞しました。高木賞及び高木賞奨励賞とは、同学会雑誌論文の中から優秀な論文に対して贈られる賞です。

（保健科学部 大沢 秀雄）



受賞した池宗特任助教と藤井准教授

## ● 筑波技術大学メールマガジンについて

筑波技術大学メールマガジンを10月1日より配信します。大学のニュース、イベント情報、入試情報など、本学の様々な情報を提供します。受験生、教育関係者、卒業生など、どなたでも無料でご利用いただけます。毎月1回発

行予定です。ご登録は、以下のページから行えます。みなさまのご登録をお待ちしております。

登録用URL ([http://www.tsukuba-tech.ac.jp/mail\\_magazine](http://www.tsukuba-tech.ac.jp/mail_magazine))  
(広報室)

筑波技術大学ニュース 第24号

発行日 平成24(2012)年9月

E-Mail [kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp](mailto:kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp)

発行 筑波技術大学 広報室

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4丁目3-15

Tel 029-858-9424

編集 筑波技術大学 総務課

Fax 029-858-9312

URL <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>